

令和7年度やさしい未来都市会議



日時：令和7年10月31日（金）

15：30～17：00

場所：東広島市役所本館3階 303会議室

次 第

1 開会 市長挨拶

（記者退室）

2 出席者紹介

3 資料説明

4 意見交換

5 閉会

令和7年度やさしい未来都市会議 出席者名簿

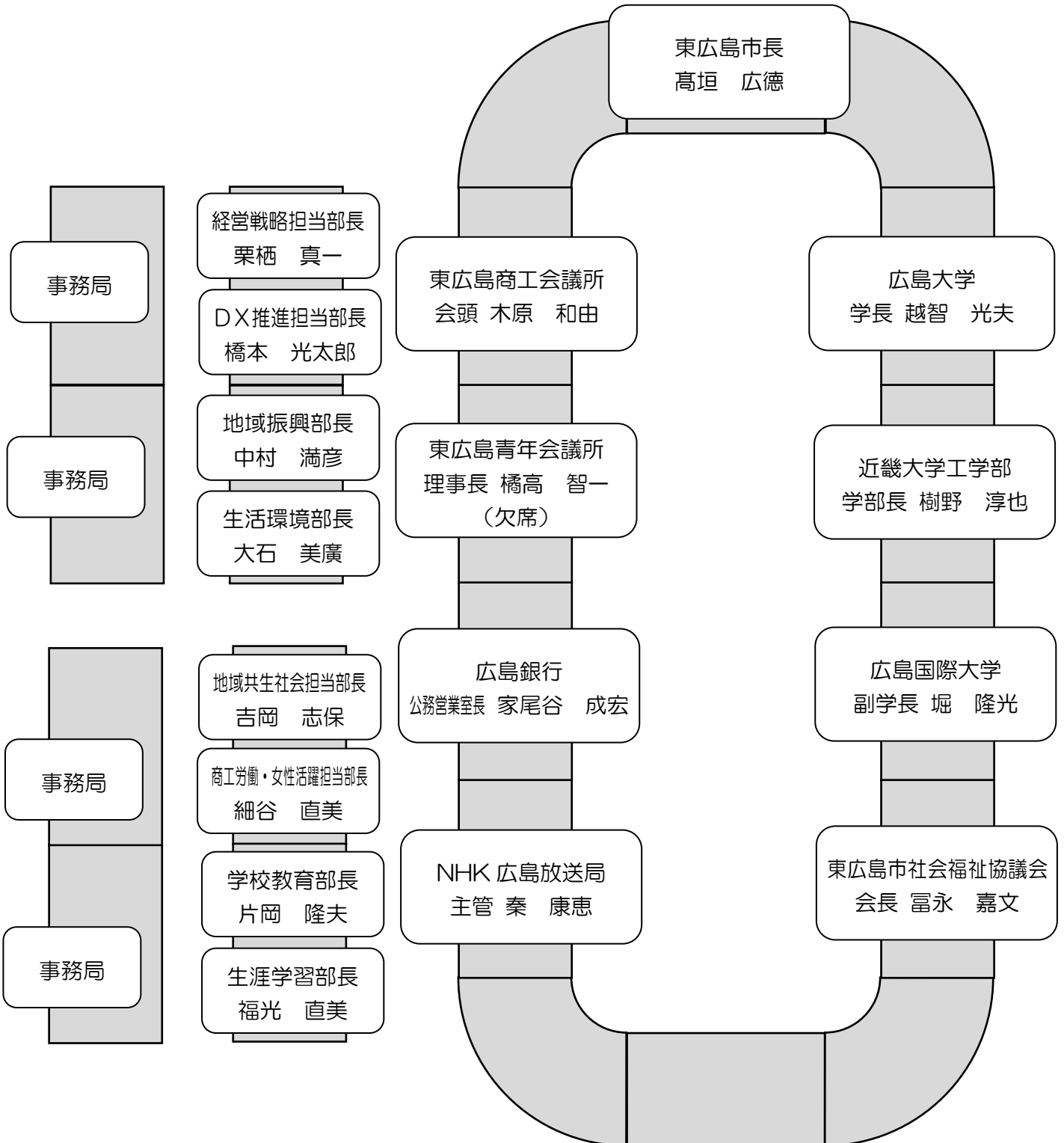
※敬称略

団体等	役職等	氏名
広島大学	学長	越智 光夫
近畿大学工学部	学部長	樹野 淳也
広島国際大学	副学長	堀 隆光
東広島商工会議所	会頭	木原 和由
東広島青年会議所	理事長	橘高 智一 (欠席)
広島銀行	公務営業室長	家尾谷 成宏
NHK広島放送局	主管	秦 康恵
東広島市社会福祉協議会	会長	富永 嘉文

やさしい未来都市会議 配席表

※敬称略

出入口



出入口

テーマ：人財尊重社会の構築

1.はじめに	2
2.これまでのテーマ	3
3.背景と課題	4
4.第五次東広島市総合計画後期基本計画	7
5.デジタルローカルハブ	1 1
6.「人財」投資の戦略像	1 6
7.「働く」領域の目指す姿と取組みの方向性	1 7
8.「暮らす」領域の目指す姿と取組みの方向性	2 5
9.まとめと論点	3 5

1.はじめに



やさしい未来都市会議

社会情勢の変化や新たな政策課題に対応するため、本市の方向性や主要施策の推進について、外部の有識者と意見交換し、その内容を施策形成に活かしていくことを目的とする。

今回のテーマ：人財尊重社会の構築

本日協議したい論点

- 1 これから社会に求められる人財とは
- 2 人財が生み出す好循環の取組方針（流入と育成）

2.これまでのテーマ



年	テーマ	対応
R3	都市成長戦略 (若者・女性から選ばれるまち) について	・ 翌年度の施策に反映 ・ 令和7年3月に策定した「第五次東広島市総合計画 後期基本計画」の4つの重点テーマとして設定 ・ 分野を横断して連携する包括的な施策として体制整備を推進 ・ 令和7年度から新たに担当部長を設置し、取組みを強化
R4	第1回 子育て・女性活躍 第2回 循環型経済の実現	
R5	第1回 人口減少地域総合対策 第2回 次世代学園都市の実現に向けて ～Town & Gown構想と共創のまちづくり～	
R6	女性活躍推進	

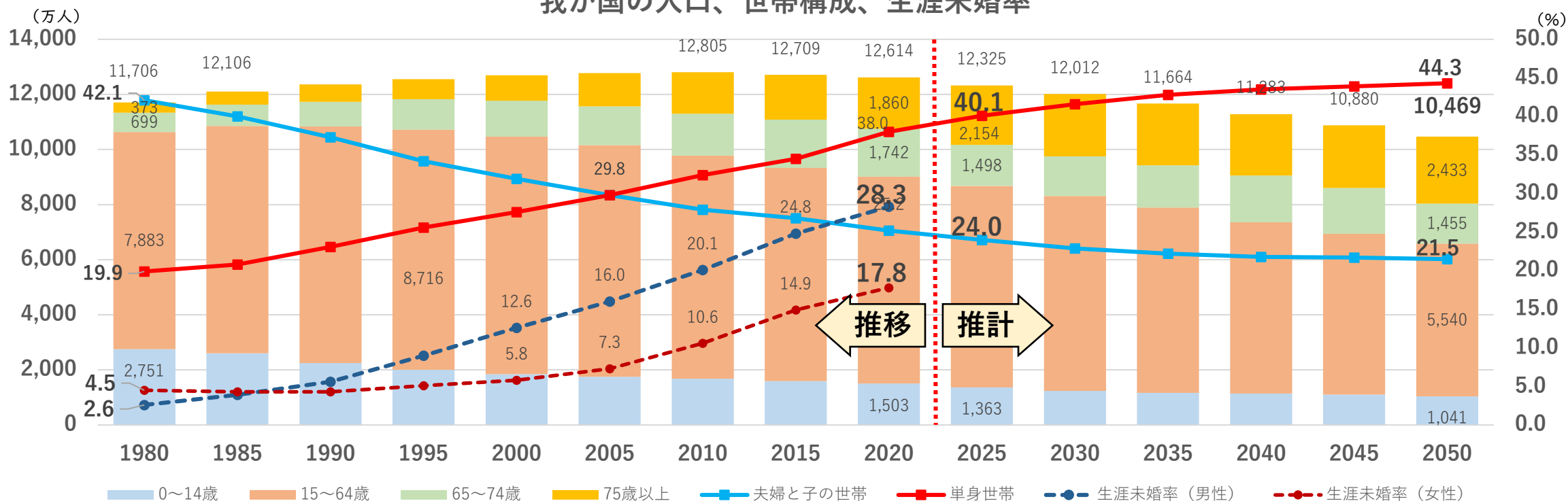
3.背景と課題



我が国の現状（人口、世帯構成、生涯未婚率）

- ・総人口：2050年には1億人程度まで減少する見込み（**少子高齢化・人口減少が本格化**）。
 - ・世帯構成：夫婦と子の世帯は一貫して減少、単身世帯が一貫して増加（**40%が単身世帯**）。
 - ・生涯未婚率：男女ともに急上昇（**男性の3.5人に1人、女性の6人に1人が生涯未婚**）。
- ⇒人口減少により、労働市場、地域社会の維持など**あらゆる分野で人材不足が深刻化**。
- ⇒「困った時は家族で何とかしてもらおうべき」という**家族主義も限界**に。

我が国の人口、世帯構成、生涯未婚率



令和5年度厚生労働白書をベースに本市作成、各データの実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（出生中位、死亡中位）

3.背景と課題



1 国の動き「骨太の方針」（人中心の国づくり）

- ◆ 人材希少社会において、国民の不安を取り除き、公教育の充実、自己実現を可能とする環境の整備、地方創生等により、人中心の国づくりを進め、人財尊重社会を築く。
- ◆ 国民一人一人にとって、Well-being（幸福度）の高い、豊かさ、安心・安全、自由、自分らしさを実感できる活力ある経済社会を構築。

2 国が抱える課題

我が国は既に「人材希少社会」にあり、生産年齢人口が今後20年間で約1,500万人（2割以上）減少することが確実視されている。この構造的変化は、経済成長や社会保障制度の維持に深刻な影響を及ぼすことから、人手不足をはじめとした様々な課題が存在する。

○主な課題

- ・ **労働力の量的減少と質的向上の必要性**：限られた人材資源の生産性を高めるための教育・能力開発不足
- ・ **教育・能力開発の充実不足**：公教育の質向上、リ・スキリング、研究活動活性化が不十分
- ・ **地方での雇用・産業基盤の弱さ**：都市・地方の人材循環不足による地域活性化の課題
- ・ **多様性・包摂性の不足**：女性・若者の参画機会不足、格差是正や所得再分配機能の停滞
- ・ **生活の安定と幸福度向上の遅れ**：将来不安、安心・安全な暮らし環境整備の遅れ

3.背景と課題



本市の考え方と課題設定

本市は、大学、研究機関、半導体をはじめとするグローバル企業が立地する特性を活かし、産学官民が連携してイノベーションを創出する環境が整った「**ローカルハブ**」の実現を目指している。8月に開催した総合計画シンポジウムで講演していただいた野村総合研究所の神尾氏によると、本市の更なる発展には高い生産性の確保が不可欠であり、そのためには**生産性向上を支える人財への投資**が最優先課題である。

また、本市はすべての市民がWell-beingを実感し、安心して暮らせるまちづくりに挑戦している。暮らしの質を高めるため、交通インフラや公共施設の整備、災害への備え、自然環境の保全など、生活の安全・利便性と環境の豊かさを両立させる施策などを幅広く推進している。

特に、**人と人が支え合い、つながりを育む豊かな地域社会の構築**は欠かせない。生涯学習や教育を通じて郷土愛を育むこと、高齢者を含む多世代が互いに力を合わせて参画することが、**ソーシャルキャピタル**（地域力など社会関係資本）の強化につながる。

こうした「**人への投資**」は、本市の本質的な魅力を高める源であり、環境・福祉・経済・文化など多様な分野の課題を乗り越え、未来に向けた持続的な発展の原動力となる。

4.第五次東広島市総合計画 後期基本計画



2つの方向性から将来都市像を設定し、内外から
選ばれる都市へ

未来に挑戦する自然豊かな国際学術研究都市
～住みたい、働きたい、学びたいまち、東広島～

目指す方向性①

世界に貢献する
イノベーション創造のまち

目指す方向性②

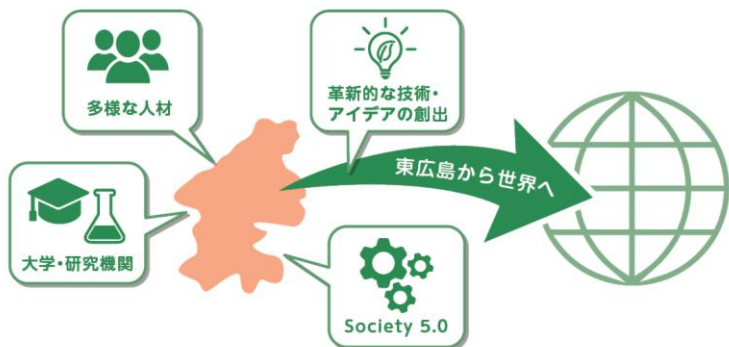
暮らし輝き笑顔あふれる
生活価値創造のまち

目指す方向性

1 世界に貢献する
イノベーション創造のまち



人工知能(AI)、IoT、ビッグデータなどの技術が急速に進化し、世界に大きな変革をもたらしています。日本でも、仮想空間と現実空間を融合させ、経済成長と社会課題の解決を両立する「Society5.0」の実現が進められています。本市では、大学や研究機関、多様な人材が集まる環境を活かし、これまでにない新しいプロジェクトに挑戦します。市内各地で生まれる革新的な技術やアイデアを通じ、世界の多様な課題解決に貢献できるまちを目指します。



仕事
づくり

暮らし
づくり

活力
づくり

まちづくり
大綱

安心
づくり

人
づくり

選ばれる都市、東広島

目指す方向性

2 暮らし輝き笑顔あふれる
生活価値創造のまち



SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる「地球上の誰一人取り残さない」目標のもと、持続可能な社会の構築が求められています。本市では、美しい自然と快適な暮らしが調和した持続可能な次世代型環境都市を目指し、高齢者や障がい者、子どもを含む全ての市民が支え合い、安心して暮らせるまちづくりに挑戦します。特に子どもたちが家庭や地域の愛情の中で健やかに成長できる環境を整えていきます。また、多くの外国人市民が文化や習慣の違いを超えて地域に溶け込み、笑顔で活躍できる社会の実現を目指します。

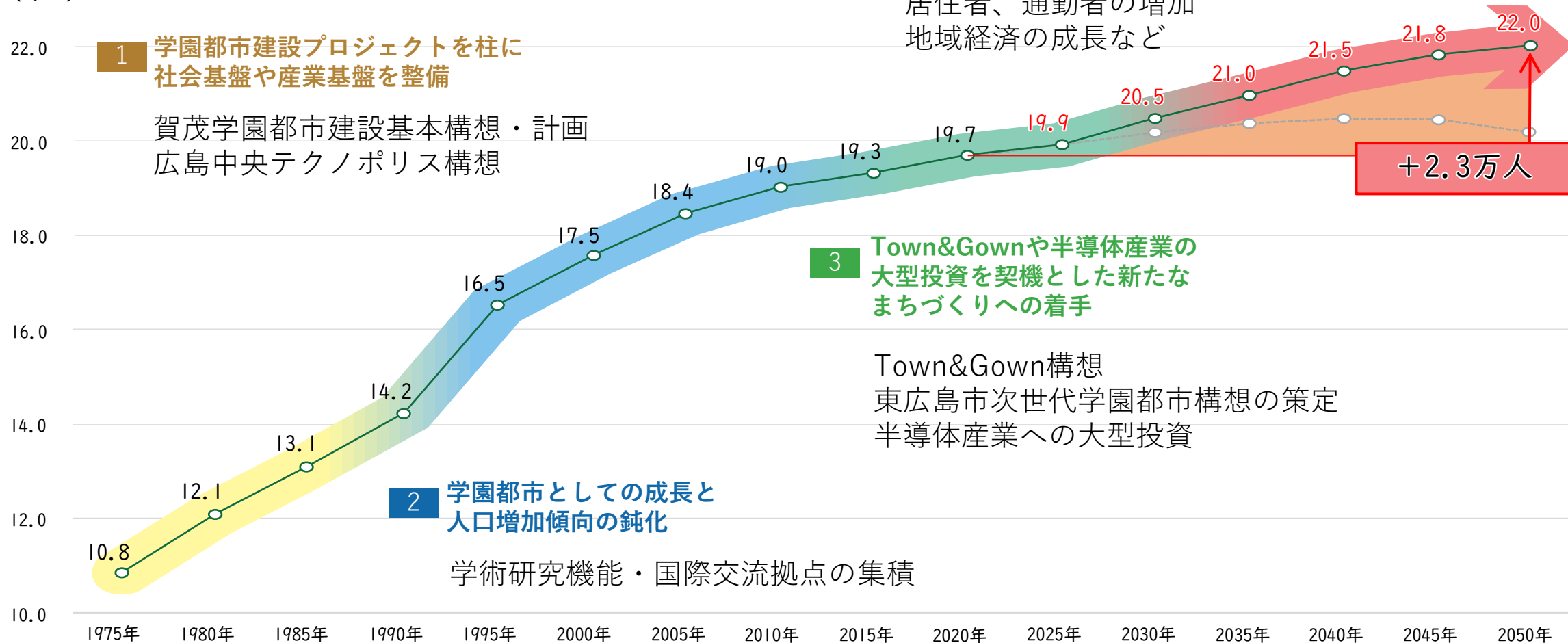


4.第五次東広島市総合計画 後期基本計画



東広島市のまちづくりの「これまで」と「これから」

東広島市の総人口の推移
(万人)



4.第五次東広島市総合計画 後期基本計画



持続的に東広島市の**発展を牽引**し
市全域へ恩恵を波及させ、世界にも貢献していくゾーンとして
2050年を見据えた新たなまちづくりを目指す

次世代学園都市ゾーンの目指すまちの姿

イノベーションを創造し、世界から起業家や研究者が集まる持続可能で成長するまち

「広島大学周辺地区」と「古川地区」の異なる特徴を持つ拠点間の連携を強化することにより、「次世代学園都市ゾーン」として一体的なイノベーション環境を創造します。



▲広島大学スマートシティ共創コンソーシアムが学生とともに描く、将来の広島大学キャンパス
(制作：広島大学 先進理工系科学研究科 塚村遼也)

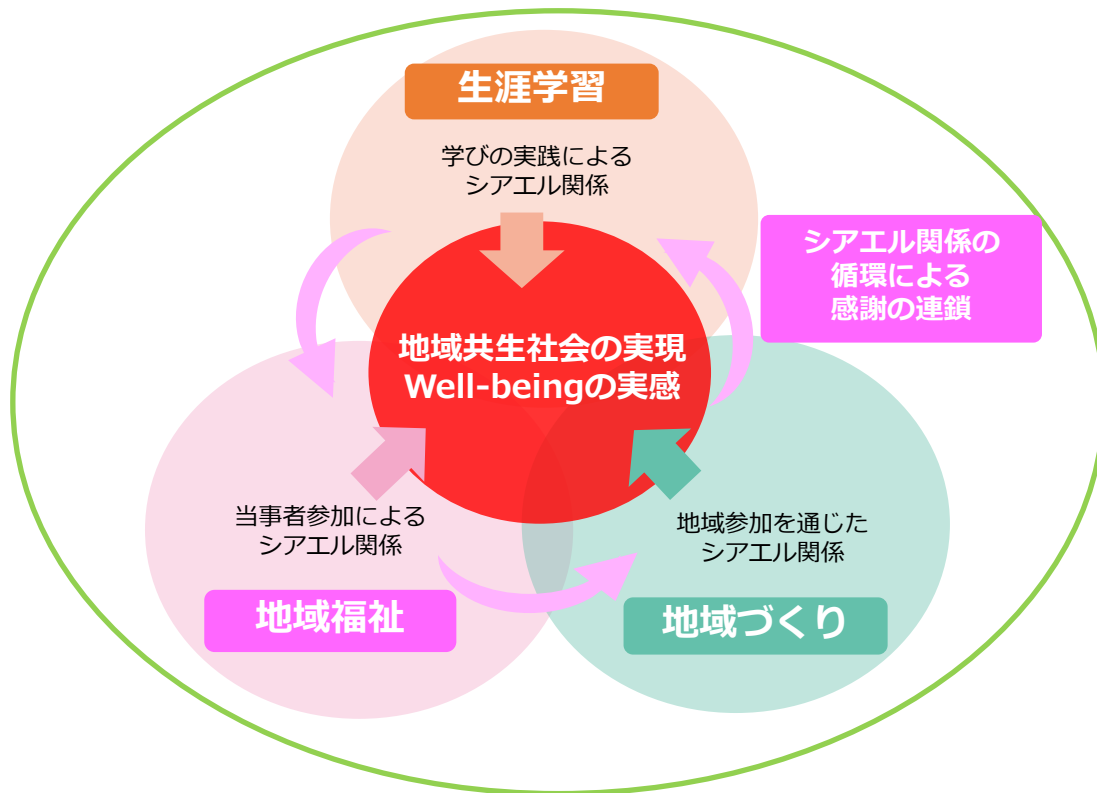
4.第五次東広島市総合計画 後期基本計画



Well-beingを実感できる地域共生社会

地域住民や地域の多様な主体が世代や分野を超えてつながり、「**支え手**」「**受け手**」という関係を超えて、学び合い、支え合い、感謝し合えるなどの「**シアエル関係**」を構築することで、主体的な学びと学んだ成果を実践に生かす「**生涯学習**」、地域住民や市民活動団体等とのまちづくりである「**地域づくり**」、困りごとを抱えた当事者の社会参加を進める「**地域福祉**」の各施策が相乗効果を発揮し、好循環を描くことで市民の**Well-beingの向上**につなげていく。

東広島市が目指す地域共生社会のイメージ図



Well-being 幸福学の研究

幸福感を感じている人は
そうでない人に比べて

-  生産性 **約 30 % 高い**
-  創造性 **約 3 倍 高い**
-  寿命 **約 10 年 長い**

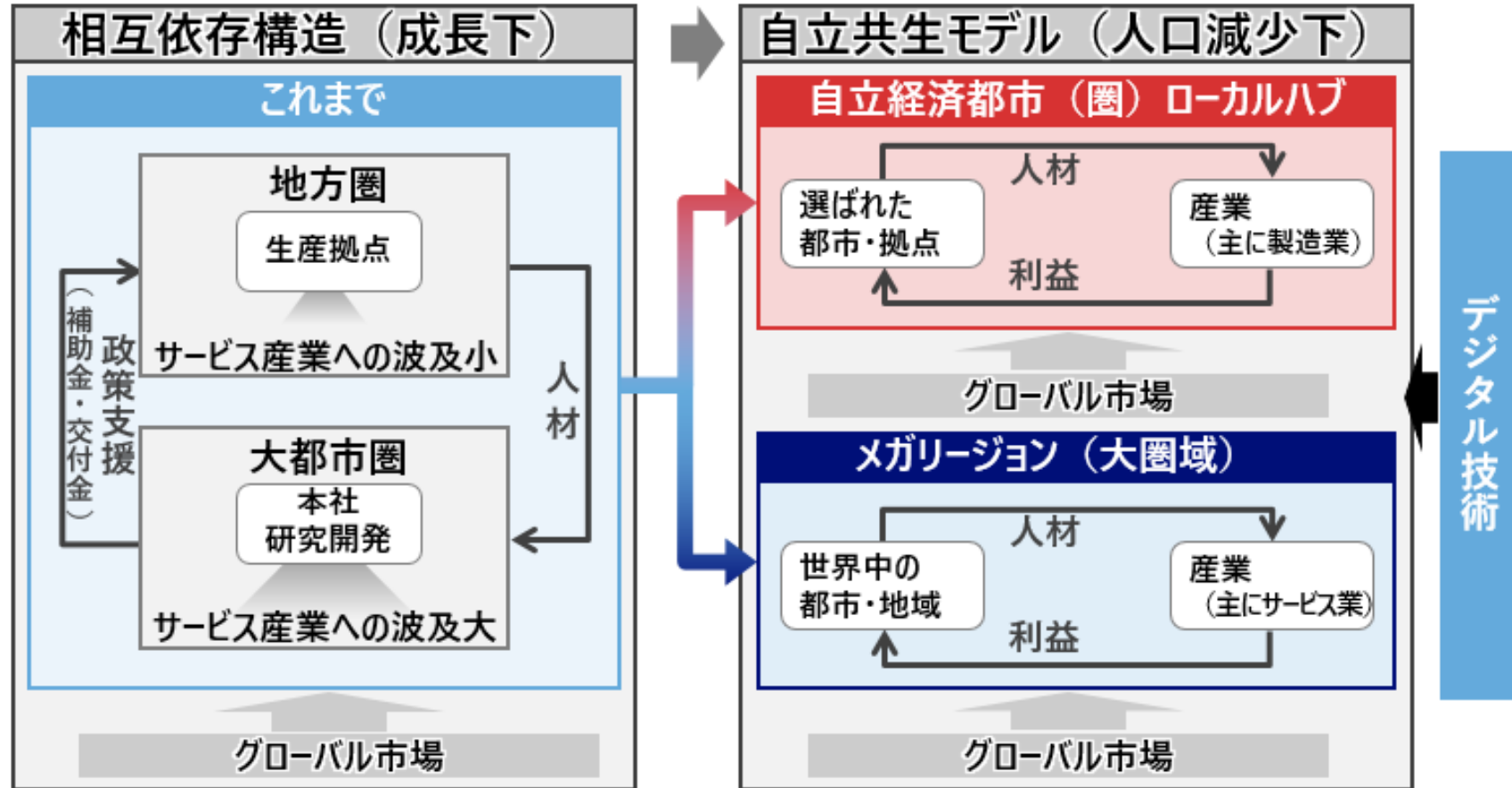
5.デジタルローカルハブ

東広島市総合計画シンポジウム講演資料（抜粋）（NRI 神尾氏）



「デジタルローカルハブ」の概念

地方都市拠点は**生産性**と**創造性**を兼ね備えた自立経済都市（圏）へ



デジタルを有機的に活用して「ローカルハブ」の機能を実現している都市・地域

⇒ 『デジタルローカルハブ』

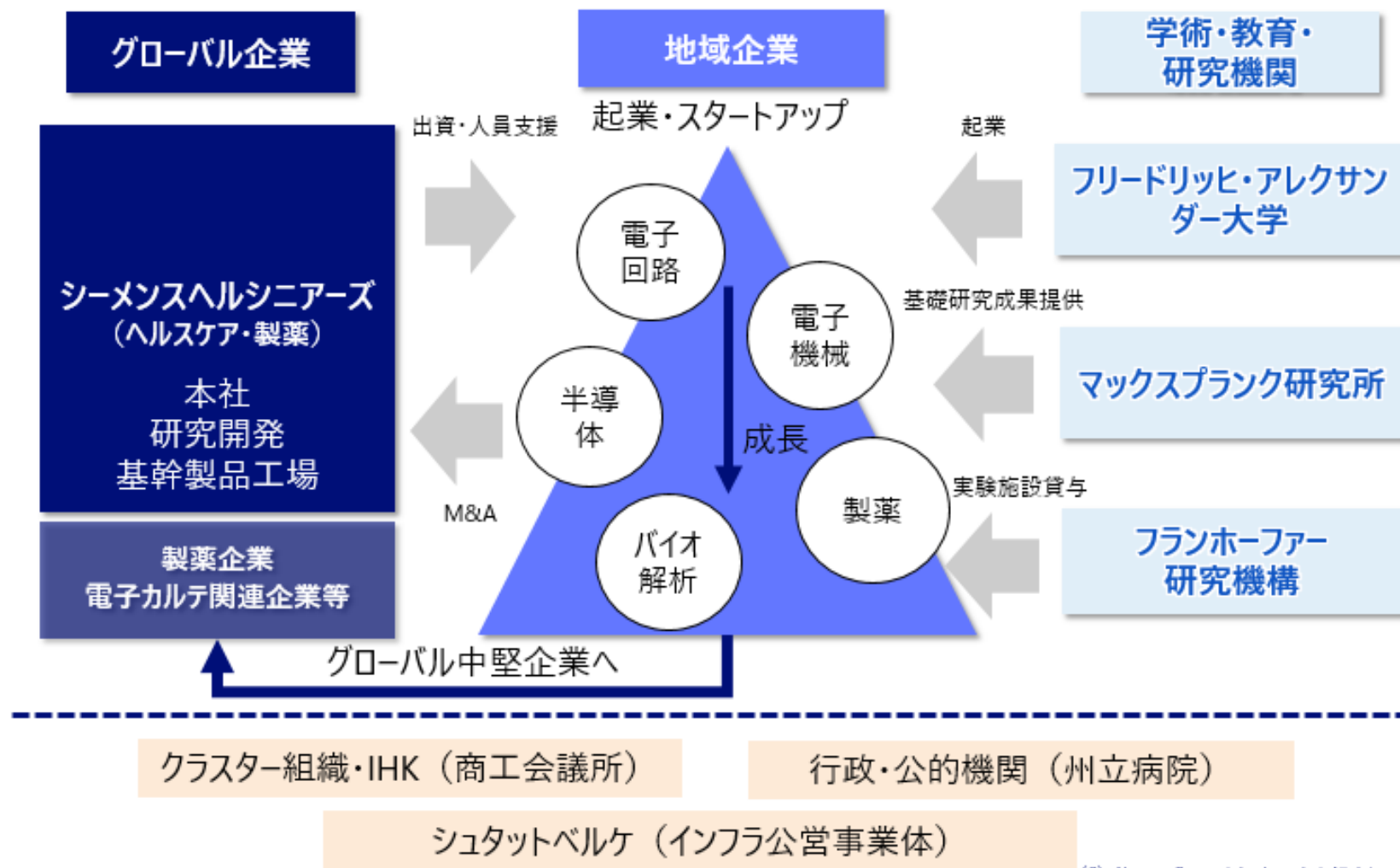
5.デジタルローカルハブ

東広島市総合計画シンポジウム講演資料（抜粋）（NRI 神尾氏）



高い生産性・競争力のあるドイツの地方都市

エアランゲン市（約11万人）は都市全体で企業の成長を応援



5.デジタルローカルハブ

東広島市総合計画シンポジウム講演資料（抜粋）（NRI 神尾氏）



高い生産性・競争力のあるドイツの地方都市

なぜ生産性が高いのか→付加価値を生み出す主体・構造・動機が揃っている

主体

①高い生産性を実現・形成するプレイヤーの存在
(大企業（拠点）・スタートアップ・教育研究機関)



生産性の高い企業が付加価値の高い雇用を生み出している



構造

②付加価値の高い事業を創造する連携・循環の仕組み
(副兼業、スピンアウト・スピノイン、戦略的M&A)



生産性の高い事業を生み出している、企業として成長させている



動機

③成長（投資）を促す目標
(AI戦略、能動的脱炭素戦略、デジタル戦略)



デジタル・脱炭素・生活環境実現に向け、新たな消費・投資がなされている



人が集まる・人が移動しない

5.デジタルローカルハブ

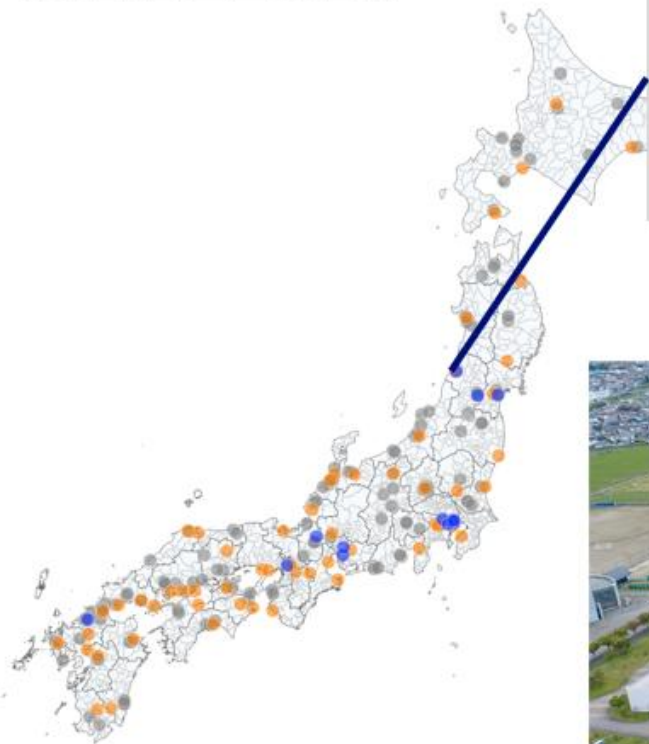
東広島市総合計画シンポジウム講演資料（抜粋、一部修正）（NRI 神尾氏）



日本のデジタルローカルハブ形成への取り組み

鶴岡市（人口約12万人）は研究とスタートアップで存在感

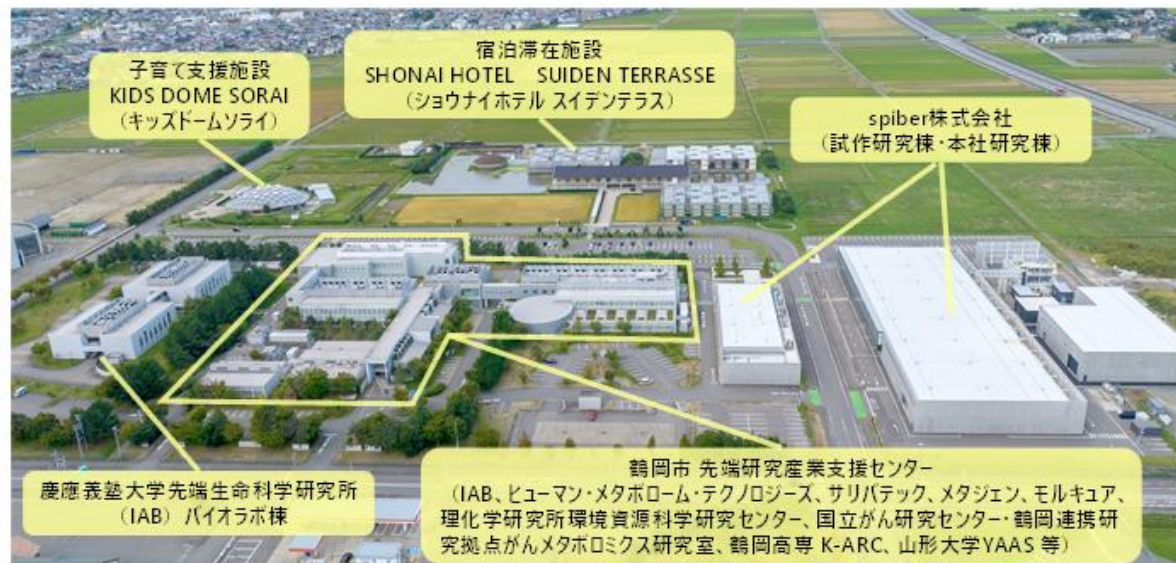
全国の地方国立大学・高専・
バイオバンクの分布



鶴岡市のポテンシャル

- 研究施設（集積）・研究者比率が高い
- バイオベンチャーなどスタートアップを多く輩出
- 鶴岡高専など、技術系高等教育機関が存在

鶴岡サイエンスパーク全景



出所）鶴岡市資料

5.デジタルローカルハブ

東広島市総合計画シンポジウム講演資料（抜粋）（NRI 神尾氏）

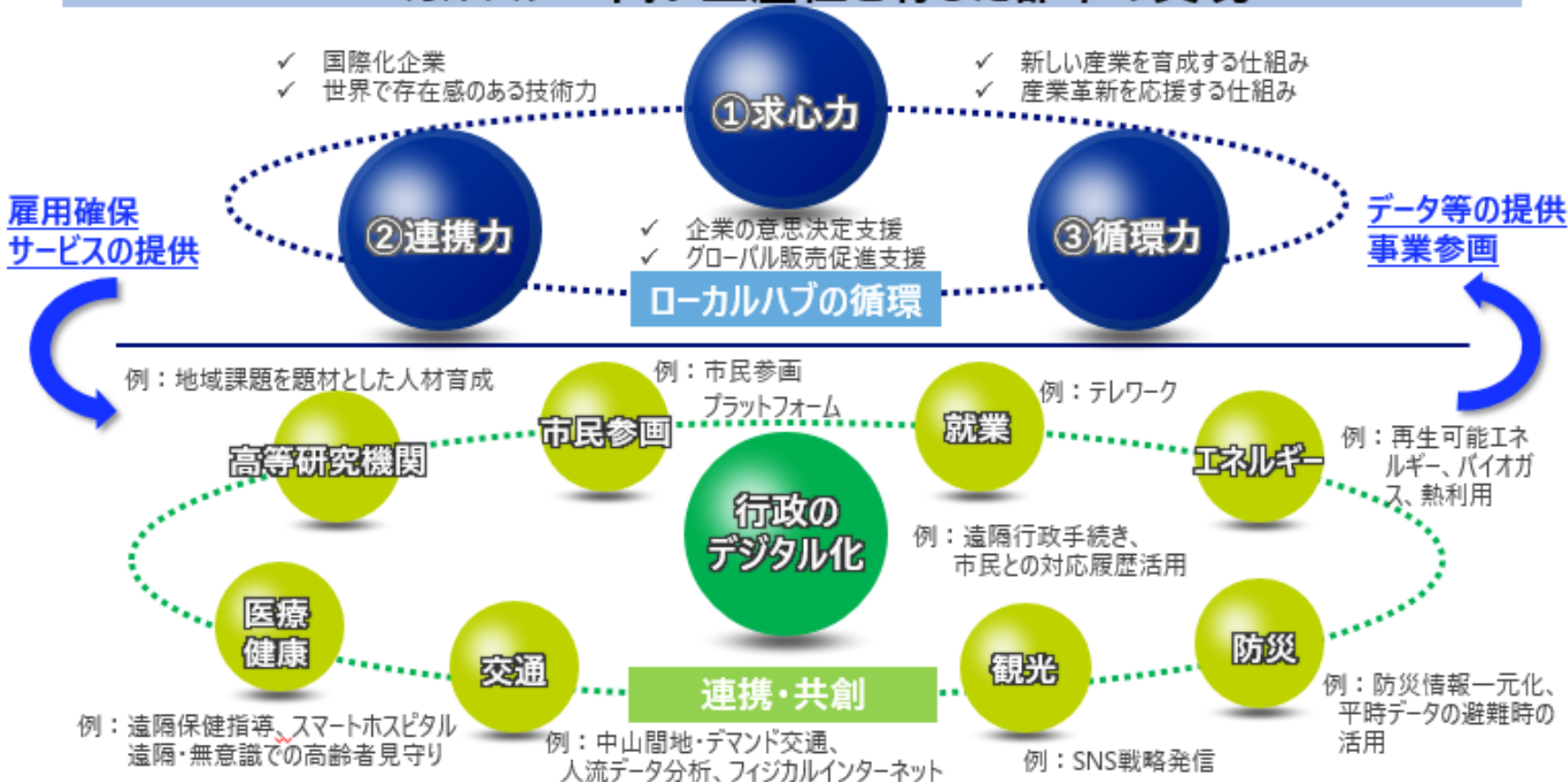


横断的な戦略づくり

デジタルローカルハブ化戦略は関係者の意識を結束するうえで重要

デジタルローカルハブ化戦略

ローカルハブ＝高い生産性を有した都市の実現



ウェルビーイング・コミュニティ＝市民幸福あふれる都市の実現

6. 「人財」投資の戦略像



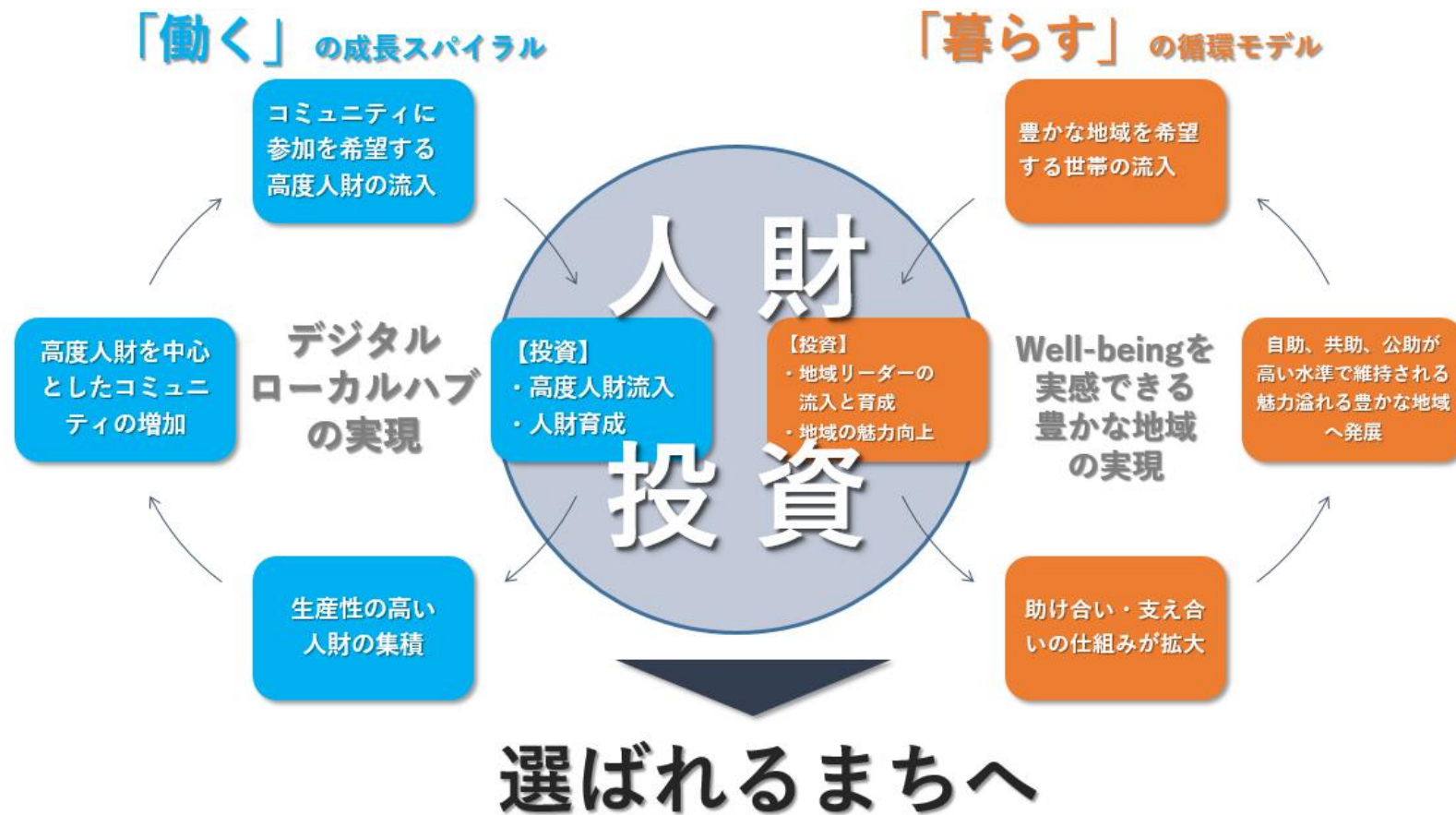
人財尊重社会の構築が 生み出すグッドスパイラル

「人財」への投資が
「豊かな地域」を生み出し、
その結果「選ばれるまち」へ

人財への投資を強化することは、人や組織のつながりを深め、多様な人財を呼び込み、そこから**新たな価値**を生み出す原動力となる。

この価値が**さらに人を引き寄せ**、地域に多様性と豊かさをもたらし、持続的な発展を促す**強い好循環**を形成する。

この好循環により、「**選ばれるまち**」となり成長し続けることを目指す。



7. 「働く」領域の目指す姿と取組みの方向性



目指す姿

高度人財の呼び込みと既存人財育成を同時並行で進め、世界へ開かれた産業基盤を築くことで、さらなる投資を呼び込み、持続的な成長スパイラルを描く。

これにより国内外から「働きたい」「事業をしたい」と選ばれる都市への進化を目指す。

<取組みの方向性①> 高度人財呼び込みの取組み

- Town & Gown のまちづくり
- 次世代学園都市ゾーンのまちづくり
- デジタルネットワーク形成促進事業(DX人材の集積)
- 学生の市内企業への就労支援

<取組みの方向性②> 人財育成の取組み

- 東広島イノベーションラボ ミライノ+ における起業支援
- 起業や副業等を目指す女性を中心としたコミュニティの形成
- デジタルリスキリングの実施及び就労支援

7. 「働く」人財に関する取組み



事業名：Town & Gown のまちづくり

概要

市（Town）と市内の3大学（Gown）が行政資源と大学の教育・研究資源を融合しながら活用することで、科学技術イノベーションによる地域課題の解決と人材育成のための地域共創の場を形成し、持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指す取組みである。

目論見

市内に4つの大学が立地するという本市の特徴を生かし、既に存在している高度人材である大学の研究者が、まちをフィールドとした事業に参画することで、知識や経験、発想力を地域に還元できる仕組みを構築する。

取組状況

市と大学が共同で設置したTown & Gown Officeにおいて、市職員と大学職員が共に業務に取り組んでいる。中でも、大学と市の担当課が共同で地域課題の解決に資する研究を実施するCOMMONプロジェクトでは、大学の人材である教員が、顧問となって学術的視点で取り組む、全国的にも珍しい取組みである。赤防株式会社、株式会社大創産業、古川精機株式会社等の市内立地企業と連携して、市・大学・企業の3者で取り組んでいる事業もある。



7.「働く」人財に関する取組み



事業名：次世代学園都市ゾーンのまちづくり

概要

広島大学のキャンパス、既成市街地、新市街地において、世界から起業家や研究者が集まる持続可能で成長するまちづくりに取り組んでいる。イノベーションが起きる仕組みづくりやグローバルスタンダードな生活環境づくりのほか、人が集い学びと実践がある地域となることで、頭脳が循環し、新たなビジネスが創出されるゾーンを創造しようとしている。

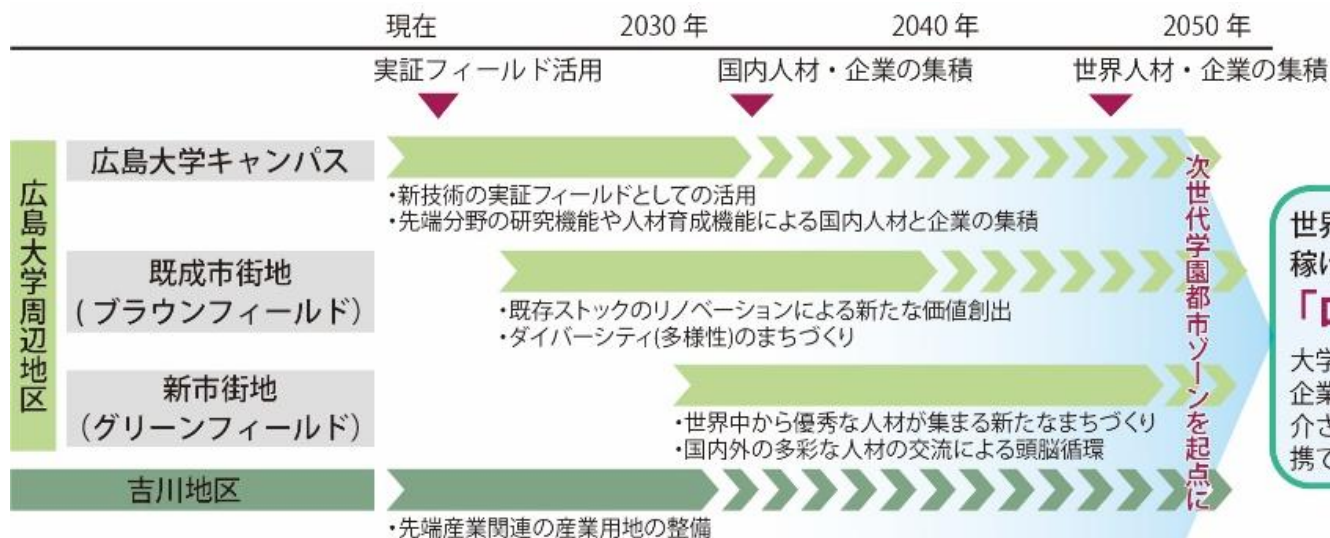
目論見

大学・企業の高度人材が活躍できる場を整備し、国内・国外から人材を流入させる。

呼び込んだ人材が交流し、新たな価値や仕事を継続的に生み出すまちをつくる。

取組状況

広島大学にスマートシティ共創コンソーシアムを設置し、理念に共感する民間企業が集まり、次世代の産業を生み出す取組みや高度人材がもとめる質の高い生活が実現するまちづくりに取り組んでいる。



世界と直結した稼げる地方都市「ローカルハブ」へ
大学という知的財産と国際的企業立地を生かし、大都市を介さず国内外の企業などと連携できる地方都市

7.「働く」人財に関する取組み



事業名：デジタルネットワーク形成促進事業(DX人材の集積)

概要

本市には、情報系学部を持つ大学や半導体関連企業、特徴的なデジタル人材など、様々な分野で活躍する企業や技術者がいるが個別の取組みに留まっている。

こうした状況の中で、これらの企業や人材の連携を促進し、デジタル人材ネットワーク（以下「DNW」という。）を作ることによって、デジタル人材の連携の場の創出、中小企業の生産性向上、民間団体の活動の活発化に繋げるものである。

目論見

学生や若手のDX人材が気軽に集まり、学び合える場所やイベントを用意することで、自然な交流やつながりが生まれる。さらに、地元の課題をテーマにしたプロジェクトを通じて、DXの力で地域に貢献する実践的な学びの機会を提供し、人材同士の関係性や地域との結びつきを深めていく。

取組状況

R7は、地域に根付く仕組みづくりとして、デジタル人材のネットワーク構築のロードマップ作成をすすめている。

将来的には、このネットワークを基盤として、地域におけるデジタルを活用した働く場の創出や、地域課題解決につながる「リビングラボ」、地域のデジタル人材・クリエイターの育成を目指す。



7.「働く」人財に関する取組み



事業名：学生の市内企業への就労支援

概要

東広島市雇用対策協議会において、学生を含む多様な人材の市内企業への就職を促進し、企業の人手不足解消に向けた支援を行う。

就職活動を控える高校生・大学生のみならず、小学生を対象とした市内企業の認知度向上に係る取組を実施。

※東広島市雇用対策協議会構成員：広島西条公共職業安定所、東広島商工連絡協議会、東広島市

目論見

市内企業の認知度を向上し、かつ、合同企業説明会など求職者と企業のマッチングを支援することで、相互のミスマッチングを防止し、人手不足を解消する。

市内企業への就業率向上のため、小学生～大学生の各階層向けの取組を実施しているが、副次的な効果として、学校教員や保護者に対しての市内企業の認知度向上も狙う。

取組状況

- ・工場見学バスツアー（3社）
児童64名、保護者23名参加
- ・企業－高等学校の就職情報交換会
高校5校、企業33社
- ・インターンシップ実施支援事業
21社参加、21名申込、11名参加



7.「働く」人財に関する取組み



事業名：東広島イノベーションラボ ミライノ+ における起業支援

概要

「創業塾」、「チャレンジマルシェ」、社会課題のビジネス解決を目指す共創型起業プログラム「円陣」により、新たな挑戦を支援。

法人設立等の具体的支援については、東広島ビジネスサポートセンターHi-Biz、商工会議所・商工会等の地域支援機関と連携し対応。

目論見

市外から来た人でも、ふらっと入りやすい開放的な空間であるミライノ+において、多様な主体がつながり、新たな学びや挑戦に寛容なコミュニティを形成する。

また、円陣事業により次の3点を目指す。

- 1) プレイヤーの活動基盤の確立
- 2) 支援者コミュニティの形成
- 3) 参加者の新たな挑戦への機運醸成

取組状況

相談または創業塾受講後起業
および円陣応募者数

(単位:人)

	相談・創業塾後 起業した人数 (特定創業)	円陣 (応募者数)	
		プレイヤー	伴走者
R5	5 (R4実績)	41 (うち市内: 19)	18 (うち市内: 8)
R6	9 (R5実績)	42 (うち市内: 17)	26 (うち市内: 13)
R7	14 (R6実績、 ミライ相談含)	48 (うち市内: 31)	33 (うち市内: 21)



7.「働く」人財に関する取組み



事業名：起業や副業等を目指す女性を中心としたコミュニティの形成

概要

「自分の価値観を大切にし、自己実現と社会貢献をつなげる」ための学びと出会いの場を提供。

今年度は、JR西条駅前に女性専用シェアオフィス「来音」をオープンした田村かすみ氏が講師となることで、参加者がより身近に起業をイメージすることができ、挑戦意欲の高い繋がりが形成されることを期待。

目論見

復職・副業・起業などを目指す方々が「自分らしい生き方・働き方」を再構築し、次の3点を目指す。

- 1) 起業・創業に対するモチベーションの向上
- 2) 自分のやりたいことの整理と、今後のアクションの明確化
- 3) 地域での仲間づくりと、学び合えるコミュニティの形成

取組状況

イベント参加人数
(R4は単発セミナーを複数回開催)

	イベント回数	参加人数
R3	6回連続講座	12名
R4	セミナー5回	63名
R5	6回連続講座	15名
R6	6回連続講座	14名
R7	6回連続講座	17名



7.「働く」人財に関する取組み



事業名：デジタルリ・スキリングの実施及び就労支援

概要

女性のデジタルスキル向上を目的とした連続セミナーを開催することで、企業が求める人財を創出し、市内企業のDX推進及び女性の就労を支援する。今年度より、試行的に実証を開始。

※連携先：住友商事株式会社、Institution for a Global Society株式会社

目論見

「子育て等で離職した世代」などを対象とした就職相談会等を実施し、復職を支援。

取組状況

R7年度において、Institution for a Global Society株式会社と連携して実験的にセミナーを開催している。年度内4回実施予定。



8. 「暮らす」領域の目指す姿と取組みの方向性



目指す姿

ソーシャルキャピタル（地域のつながりなど）を強化し、地域リーダーの流入と育成を両輪として進めることで、助け合い・支え合いの仕組みを広げ、孤立や虐待の減少、社会教育における人手不足の解消を実現する。

その結果、地域に愛着を持ち自己実現を果たす人や、この地域で暮らしたいと考える人が増え、世代を超えて支え合う豊かな地域となることを目指す。

＜取組みの方向性①＞ 地域リーダーの流入・育成の取組み

- 社会教育がつなぐ地域人財の好循環
- 地域活性化人材（地域おこし協力隊、集落支援員、地域活性化起業人）
- CS（コミュニティ・スクール）挑戦応援事業
- 外国人市民地域参画促進事業

＜取組みの方向性②＞ 地域のつながり強化の取組み

- 『「好き」や「得意」が誰かの力になる』取組みの推進
- インフォーマルな助け合いと居場所づくり
- 見守りサポーター事業
- みらいの里山プロジェクト
- 第三の学びの場事業

8.「暮らす」人財に関する取組み



事業名：社会教育がつなぐ地域人財の好循環

概要

地域全体のWell-beingを高めるため、社会教育士が核となり、地域の大人・子ども・若者・大学・企業等がつながり、学びと実践が好循環する地域づくりを推進する。

社会教育士から学んだ地域コーディネーターが、地域で活動する大人と子どもたちをつなぎ、世代を超えた信頼と感謝の連鎖を生み出すとともに、主体的に地域活動に参画していこうとする中高生は、社会教育士の伴走支援のもと地域課題等に挑み、地域への愛着を深め、未来の地域人財として成長していく。

このように社会教育が媒介して「学び」「支え」「挑戦」を促し、地域への貢献に導く人材の好循環を構築する。

目論見

【大人】

- ・地域コーディネーターが、地域の大人・子ども・若者・企業・大学等をつなげることで、地域の大人に活躍する場を提供し、自分の「好き」、「得意」を子どもに伝え、地域の担い手を育成していく。

【子ども】

- ・子どもの「居たい」「行きたい」「やってみたい」を実現し、主体性・社会性を育む。
- ・中高生が主体的に地域活動に参画するようになり、「学び」「支え」「挑戦」が循環する地域の担い手に成長する。

取組状況

【地域まるごと子どもの居場所（仮）】

- ・社会教育士による地域コーディネーター養成講座を実施する。
- ・養成された地域コーディネーターは、地域の核となり、地域の大人の「好き」、「得意」と場所（地域センター・図書館・企業・大学等）をつなぎ、子どもが安心して過ごせる場を創出する。

【地域まるごと探究ラボ（仮）】

- ・児童青少年センターを拠点に社会教育士が中高生の主体的活動を伴走支援し、PBL（課題解決型学習）を通じて探究力と地域愛着を育む。
- ・中高生が地域課題等に挑戦することで、その発想が地域に活かされ、商店・団体・企業などを巻き込んだ地域活性化が促される。



地域で活動している人たちの交流会



中高生が企画実施した子ども向けのイベント

8.「暮らす」人財に関する取組み



事業名：地域活性化人材（地域おこし協力隊、集落支援員、地域活性化起業人）

概要

地域おこし協力隊	都市地域等から本市の人口減少地域に住民票を異動し、隊員のノウハウや経験を活かした地域ブランドのPR等の地域おこし支援や、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る
集落支援員	過疎地域等の集落の維持・活性化のため、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウを有する人材が、集落の巡回・状況把握、住民同士の話し合いの促進、これらを通じ必要とされた具体的な取組やその取組主体となる地域運営組織などのサポートを行う
地域活性化起業人	都市部の企業等と本市の協定等に基づき、社員を一定期間派遣し、市が取り組む地域課題に対し、社員の専門的なノウハウや知見を活かしながら即戦力人材として業務に従事することで、地域活性化を図る

目論見

・地域おこし協力隊

これまでにない価値観で地域の活性化に取り組む協力隊員と触れ合うことで、住民の中に改めて我がまちを見返す機会が生まれ、まちづくりに関わる機運が高まる。

・集落支援員

集落支援員のサポートにより地域運営組織の活動が活性化され、地域資源を活かした取組みの促進により地域の魅力向上が図られている。

・地域活性化起業人

地域活性化起業人が持つ企画立案や広報活動のノウハウを活かすことで、プロジェクトの促進や、地域住民や企業等への効果的な情報発信につなげる。

取組状況

・地域おこし協力隊

平成28年度から実施。これまで計25人を本市の人口減少地域に受け入れ、それぞれの隊員が自分の経験や得意分野を活かした活動を行っている。卒隊した20人のうち15人が本市に定住し、引き続き活躍している。

・集落支援員

令和6年度から実施。これまで計3人を過疎地域に配置し、地域資源を活かした自然教育や空き家対策、地域特産品の拡充などに取り組んでいる。

・地域活性化起業人

- 令和5・6年度に実施。食をプロモーションするためのワークショップの開催や、市内産品を活用した商品開発（米粉ドーナツなど）を行った。
- 令和7年度から実施。生活デザイン・工学研究所が整備している福富みらいの森びらきイベントの際には、各報道機関への広報活動を行い、多くのマスコミに取り上げられた。また、同研究所の今後の事業展開の検討において、地域の特徴を踏まえた視点で企画・提案を行っている。



地域おこし協力隊



集落支援員



地域活性化起業人

8. 「暮らす」人財に関する取組み



事業名：CS（コミュニティ・スクール）挑戦応援事業

概要

- ◆ これからの学校と地域（地域全体で子どもを育てる文化の再生）として、学校教育と社会教育が連携して行っている取組（コミュニティ・スクールと地域学校協働活動）。
- ◆ 学校と地域が連携する機会を創出し、ソーシャルキャピタルを醸成することで、希薄化した学校と地域との関係を再生。
- ◆ 学校を地域の核とし、地域と共にある学校として、社会教育団体をはじめ保護者や企業等とのつながりの場とする。

目論見

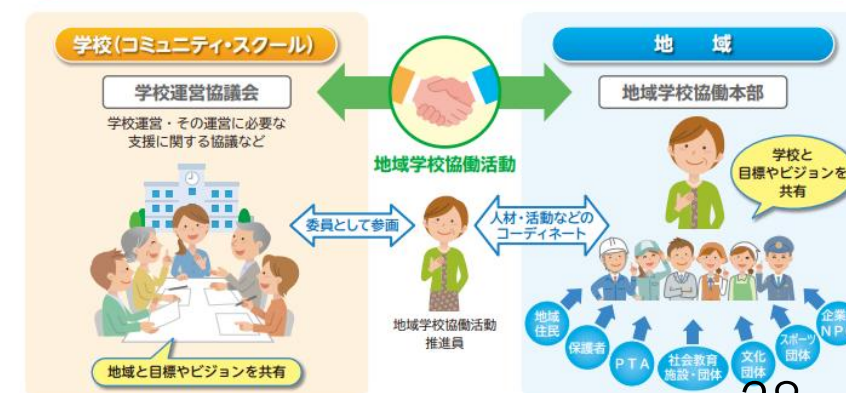
- ◆ 学校運営に必要な人材育成（確保）
- ◆ 職場体験・郷土の伝統・文化芸能学習による郷土愛の醸成
- ◆ 地域イベント・ボランティア参加による地域活性化

取組状況

- ◆ 市内全小中学校にコミュニティ・スクールを設置
- ◆ コミュニティ・スクールと地域学校協働及び社会教育関係団体等をつなぐ、地域学校協働活動推進員の「人財」育成が求められる。

教育活動に参画することで、積極的に子どもの教育に携わる生きがいにつながり、学び舎体験が充実顔が見える関係となり学校運営が充実

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



8. 「暮らす」人財に関する取組み



事業名：外国人市民地域参画促進事業

概要

誰もが暮らしやすい多文化共生のまちを目標に、外国人市民の生活環境の充実を図る。

外国人市民と日本人市民（地域）がつながることにより、お互いに安心して生活し、外国人市民も地域社会で活躍できるよう、市内在住の外国人市民に対して防災に関する講座を開催し、キーパーソンの育成とともに同国コミュニティ内や地域内での防災知識の普及を促進する。

目論見

外国人市民が発災時に適切な避難ができるよう、防災に関する知識や意識を高め、同国コミュニティ内や地域内でのキーパーソンとなる者を育成することで、外国人市民も共に地域の構成員として活躍できる誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを目指す。

取組状況

■外国人防災キーパーソン育成講座の実施

①令和7年9月27日

東広島市総合防災訓練に8か国12名の外国人市民が参加し、日本人市民とともに避難誘導訓練やバケツリレーによる初期消火等を行った。

②令和7年10月18日

①の参加者を中心に防災講座の受講とワークショップを行った。



8. 「暮らす」人財に関する取組み



事業名：『「好き」や「得意」が誰かの力になる』取組みの推進

概要

自分の趣味や得意なことを通じて、人生を楽しみながら、誰かと緩やかにつながっていくことが、結果的に誰かの支えや力になり、また自分自身のWell-being向上にもつながる（感謝の連鎖）。

市民一人ひとりが主役であるという認識のもと、「好き」や「得意」が形になるための支援を行うことで、多様な主体とつながりを生み出し、豊かな地域社会を形成する。

目論見

学びや教養を深めたい方には、生涯学習センターなどでの主催講座を通じて学びの機会を広げ、自主サークルなどによる仲間づくりを進める。

自分の得意分野を生かして誰かの支えになりたい方には、住民同士の支え合い活動や居場所づくりの立ち上げを支援する。

自分らしい生き方や働き方で地域に貢献し、地域の課題解決につなげていきたい方には、協同労働団体などの立ち上げを支援する。

プレイヤーと支援者の関係（イメージ）

プレイヤー 支援者の例	学び推進員	コミュニティソーシャルワーカー 地区担当保健師	各担当課
	↓	↓	↓
	学びや教養を深めたい方 → 自主サークル等	↓	
	得意なことを生かして誰かを支えたい方 →	こども食堂 地域の居場所 支え合い活動	
	地域課題を解決したい方 →		住民自治協議会 市民活動団体

※プレイヤーと支援者によるアウトプットの一例であり、実際には様々な組み合わせによりつながりが創出される。

地域づくりのお手伝いをします！

誰もが住み慣れた地域で安心して長く在宅生活が送られるように、生活上の困りごとをお聞きし、地域住民や関係機関等で解決を目指す支え合いの地域づくりをサポートします。



東広島市社会福祉協議会の
CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

8. 「暮らす」人財に関する取組み



事業名：インフォーマルな助け合いと居場所づくり

概要

誰一人取り残さず、地域で共に生きていくことができる社会の形成を目指し、市民一人ひとりが日頃から互いに気にかかけあい、支え合うとともに、多くの人々が気軽に利用できる多様な居場所を構築。

社会福祉協議会のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）等による立上げ支援により、市民の「やってみたい」を「やってみた」に、そして「続けたい、もっとよくしたい」という深化につなげる。

目論見

地域で暮らしている方が、自分の地域や社会に関心を持ち、活動に参加していくことで、支え合いのまちづくりが形成される。

こうした活動を通じ、地域住民や地域の多様な主体が世代や分野を超えてつながることで、学び合い、支え合い、感謝し合えるなどの「シアエル関係」が構築され、市民一人ひとりのWell-beingの向上につながっていく。

取組状況

令和7年3月末の状況は以下のとおり。

地域（こども）食堂	24か所
地域の支え合い活動	18か所
多様な居場所	10か所
住民同士による見守り体制（見守り会議）	56か所

※地域（こども）食堂は、不特定多数を対象として継続的に実施されるものを計上している。



8.「暮らす」人財に関する取組み



事業名：見守りサポーター事業

概要

地域との連携による見守り体制を構築するため、民生委員と協力しつつ、地域の見守りにあたる「見守りサポーター」制度を導入。

近年は、企業との連携による見守り体制の構築（企業見守りサポーター）にも注力。

目論見

見守りサポーターは民生委員と協力しながら、日常生活の中で、可能な範囲の見守り活動を行ったり、支援を必要とする人に適切な支援が行き届くように関係機関等との連携を行う。

企業見守りサポーターは、日常業務の中で気になる世帯等について、関係機関に情報提供を行う。研修実施時に、福祉の専門職（保健師、社協、包括など）と顔の見える関係を構築し、連携強化に努める。

取組状況

令和7年8月末の状況は以下のとおり。

民生委員推薦等の 見守りサポーター	約1,000名
企業見守りサポーター	約400名
協力事業所数※	15か所

※金融機関、郵便局、生協、調剤薬局、小売、移動販売事業者、生命保険会社など



8.「暮らす」人財に関する取組み



事業名：みらいの里山プロジェクト

概要

福富の自然（自然と資源）と人（知恵や経験）の新たなカタチの共生、想いを持った多彩な人々が自ら集い、これからの福富の里を創る

目論見

人の生活の場に近い里山の森の材などの「豊かな自然」と、DXの根幹となる「テクノロジー」に、「福富の多彩なひと」を掛け合わせることで、自然とひとと新たな発想がつながり、新たな価値創造を推進する。

こうした経済価値の創出と循環モデルを構築し、豊かで活力のある中山間地域を実現することで、人口流出抑止・流入を促進する。

取組状況

①福富みらいの森

里山での遊びを体験しながら、豊かな森の暮らしの循環を知る。その里山の財を活用し、高付加価値な地域産品を開発する。

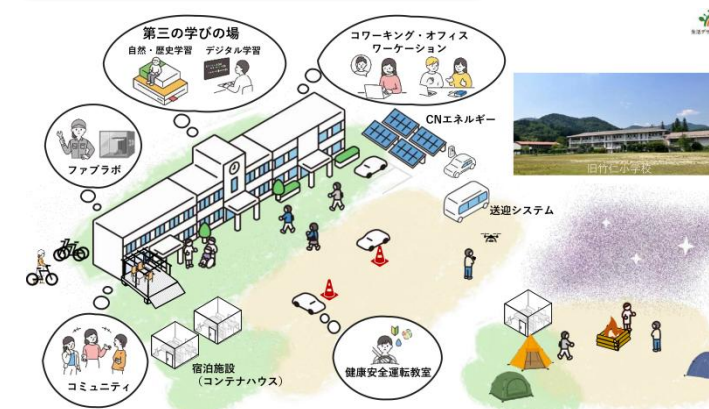
②福富みらいベース

「こども×新しい学び」、「自然×デジタル」、「ひと×ひと、わざ×わざ」など、新たなつながり・学びを生み出す場所を構築する



◀福富みらいの森

▼福富みらいベース



8.「暮らす」人財に関する取組み



事業名：第三の学びの場事業

概要

第三の学びの場(自宅、学校、職場とは別に存在する、居心地のいい居場所)に青少年が集い学ぶことで、新しい価値観や人とのつながりが生まれ、市民活動が活発になり、文化や心の豊かさが生まれる。

目論見

東広島市の多種多様な地域の特色を活用し、これからの本市を支える青少年の育成を図る。

その育成に際しては、地域の文化、生活を知り、また各地で活躍する人を知ること、当地への深い愛情や愛着を生むとともに、こうした郷土愛の醸成に、昨今の生活スタイルに不可欠なデータやデジタル技術を組み合わせることで、新たな価値の創造を目指す。

取組状況

中山間地域に、里山での遊びを体験しながら、「自然×デジタル」、「ひと×ひと、わざ×わざ」など、新たなつながり・学びを生み出す場所を構築する。

▼福富みらいの森での
「森の再生×学び・遊び」



9.まとめと論点



まとめ「働く力と暮らす豊かさで、世界に選ばれる都市へ。」

本市は、人財への戦略的投資を「働く」と「暮らす」の二つの視点から進め、地域の知・技術・文化を活かした強い好循環を創出を目指す。

既存人財のスキル向上と高度人財の誘致により産業競争力を高め、グローバルに開かれたデジタルローカルハブとして成長する。

同時に、地域とのつながりの強化やリーダーの流入・育成を通じ、誰もが支え合い、安心して暮らせる美しく豊かなまちを形成する。

この二つの軸が相乗効果を生み、国内外の人と企業が「選ばれるまち」として持続的な発展を遂げていくことを目指す。

今回のテーマ：人財尊重社会の構築

本日協議したい論点

- 1 これから社会に求められる人財とは
- 2 人財が生み出す好循環の取組方針（流入と育成）